

2023年度 京都教育大学附属京都小中学校 学校評価

| 自己評価区分 | |
|--------|--------------|
| A | 十分達成できた |
| B | 概ね達成できた |
| C | 十分には達成できなかった |
| D | ほとんど達成できなかった |

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

| 本年度の重点目標 | 具体的な取組内容 | 自己点検評価 | 自己評価区分 | 学校関係者評価 | 改善策 |
|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 生徒の望ましい成長に資する日常の教育活動のさらなる充実を図る。 | ①研究開発中の各教科9か年の系統的カリキュラムについて、次期学習指導要領改訂を見据えた各教科の授業実践を進める。 ②ICT機器の利点を活用した授業や生徒活動の構築をすすめる。 ③生徒が自己有用感を高める学級経営と道徳科教育の充実を図る。 ④経験主義教育の流れをくむ学校行事、生徒活動の充実を図る。 | ①学習指導要領改訂の理念に則り、本校独自に構築した学習理論に基づく授業の在り方を模索、授業実践に努めた。 ②端末を用いて、授業実践を行い、校内研修において有効なICTの活用の仕方を学びあうことができた。 ③生徒情報を共有し、学級担任同士や学年教員が協働する学校運営体制の充実を図る取組を推進した。 ④すべての学校行事をコロナ禍前より、充実した形で実施できた。 | B | ・概ね良好である。 ・4・3・2制の利点を生かし、9年間の生徒の学びをより充実させていくことが必要である。 ・子ども達の非認知能力の育成のためにも、協働的な学びをより充実させていくべきである。 ・学校行事の復活は保護者の満足度も高まった。今後もぜひ継続して欲しいという声が多かった。 | ・授業実践や学級経営などの教員研修を更に充実させ、質の高い教育をめざす。 ・ICT機器の利点を活用した授業や生徒活動の構築をすすめる。 ・学校評価のしくみを活用し、学校の風土や雰囲気把握し、学校運営を改善し、「みんなが安心して学べる」場所づくりをめざす。 |
| (2) 義務教育9年間で資質・能力を育成するための教育課程を開発、実施する。 | ①文部科学省研究開発学校指定(延長第1年次)を受け、各教科9か年の系統的カリキュラム案について授業実践を通じた教育効果を検証し、考察していく。また、各教科の指導内容の重複や9か年の系統性について教科間連携のもとに研究をすすめる。 ②社会性を育む特別支援学級教育課程と事例研究に継続して取り組む。 | ①文科省研究指定延長第1年次として、今まで積み上げてきた研究成果と課題を踏まえ、更なる実践と健闘を行った。また、その研究成果を広く発信し、全国から多くの方に実践を見ていただくことができた。 ②特別支援学級教育課程の実践と事例研究を継続実施した。 | A | ・附属に来たら、これだけの教師力(授業力・理論)が身についたという実感を教員がもつことにより、広く全校の学校や公立学校にも還元していけることにつながっていく。 ・特別支援学校と特別支援学級の両方を保有する全国2大学の一つとして、連携研究はさらに推進されるべきである。 | ・研究開発学校指定研究を推進し、義務教育9か年の各教科カリキュラムの実践と教育効果の検証を今後も実施する。 ・附属特別支援学校との連携研究を推進する。 |
| (3) 義務教育学校の教育効果を検証する。 | ①全国の小中一貫教育学校や義務教育学校とのネットワーク拡充を図り、本校の教育研究成果の積極的な発信に務めるとともに、課題についての情報共有に努める。 ②本校が構築した義務教育学校カリキュラムモデルについて、積極的に情報を発信するとともに、汎用性の検証に継続して取り組む。 | ①大学と連携し、文部科学省研究開発学校指定「義務教育9年間で資質・能力を育成するための教育課程の再構築に関する研究開発」について、共同研究し、全国に発信することができた。 ②生徒の発達段階を考慮したカリキュラムが各教科において育てたい資質・能力の育成に効果があることを検証できた。 | A | ・増え続ける義務教育学校や小中一貫教育学校のフロントランナーとして、研究成果を広義に発信していくことを継続する。 ・9年間のカリキュラムモデルは、参考される研究成果であるという情報を広く伝えていくべきである。 | ・京都府・市との連携をすすめるべく、積極的に研究成果の発信を行う。 ・本校が構築した義務教育9か年の各教科カリキュラムの実践と検証をすすめ、全国に成果と課題を発信していく。 |